

A 群 β 溶連菌抗原検査		8122000		
		担当部署		
A ゲン B ヨウレンキン		微生物		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項	該当なし			
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報	A 群 β 溶連菌感染の診断は、本製品による検査結果のみでおこなわず、他の検査結果および臨床症状を考慮して総合的に判断すること。			
検査受付時間	8 : 15 ~ 16 : 00			
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項	該当なし			
検体採取の特別なタイミング	特に無し			
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1	咽頭 細菌 綿棒 1	なし		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件	室温 採取後直ちに提出			
検体受入不可基準	1) 検査ラベルがない検体 2) 専用の綿棒以外で採取された検体 3) 乾燥した検体			
保管検体の保存期間	保存不可			
検査結果・報告				
検査室の所在地	病院棟 3 階 中央検査部			

測定時間		当日中			
生物学的基準範囲		陰性 (-)			
臨床判断値					
基準値					なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	該当なし			
	低値	該当なし			
生理的変動要因		該当なし			
臨床的意義		<p>化膿レンサ球菌 (<i>S. pyogenes</i>) はヒトに咽頭炎、扁桃炎、膿痂疹などの急所局所性の化膿性炎症を引き起こす。細菌性咽頭炎の原因菌として最も高頻度に分離され、主に 5~15 歳の若年者が罹患する。化膿性炎症の原因菌として、本菌は <i>Staphylococcus aureus</i> と並んで最も重要である。<i>S. aureus</i> による病巣は一般的に限局性であるが、本菌の感染巣 (丹毒など) はより拡大傾向がある。なお、咽頭炎とともに全身の皮膚に紅疹が生じることがあり、猩紅熱と呼ばれる。近年、より重篤な病型として敗血症、壊死性筋膜炎、呼吸不全、多臓器不全を引き起こす劇症型 <i>S. pyogenes</i> 感染症が報告されており、約半数が死亡する。</p> <p>「戸田新細菌学 改訂 34 版 2013 年」</p>			